

2023年10月3日

緊張と葛藤が人を成長させる ～ 合唱大会から思うこと ～

「やばい！ むっちゃ緊張した。」「緊張して、足がガクガクやった。」ステージから降りてきた子どもたちが口々にこう言っていました。

先日、ある中学校の合唱大会（文化祭合唱の部）でのことです。指揮も伴奏も子どもたちがやりました。もちろん、入退場や整列もです。時間にすればわずか数分のことですが、本番はみんなすごく緊張していました。また、「ちゃんとできるだろうか？」という不安いっぱいの中での発表です。さらに、学校とは違い本格的なホールでの合唱は、子どもたちにより大きな緊張を与えたことでしょう。

一方でこんな声も。「やりきったぞ！」「もう一回歌いたいな～。」「楽しかった。」などなど。クラスみんなの気持ちが一つになっての合唱。「みんなで一つのことをやりきった」という充実感からでしょうか。すばらしい歌声はもちろん、子どもたちの感想も興味深く聞かせてもらいました。

ところで、こうした取組みは子どもたちの緊張や不安、葛藤などを伴うもので、すごく勇気がいることだと思います。子どもたちはそんな貴重な経験をしています。また、その緊張は子どもたちにとって大きなストレスです。でも、それは子どもたちが乗り越えられないものではなく、少しの勇気（本人にはすごく大きな勇気なんです）をもって克服できるものです。（ですから、決してストレスで終わらせてはいけません。）この合唱大会で子どもたちはそれを乗り越えていきました。目の前にある課題（山）を乗り越えることができたとき、子どもに（実は私たち大人も同じですが）自信が生まれ、大きく成長します。

私たち教職員は、日々そんな子どもの成長を支えています。適度に子どもに合わせた緊張をつくり、その節目を子ども自身の力で乗り越えさせていく。まさに「生きる力」の育成ではないでしょうか。

人生にはいろんな節目があります。誕生日、入学（園）式、卒業（園）式、成人式、結婚式、葬式、また、入学試験やさまざまなテスト、いろんな大会やさまざまな試合……。こうした節目の中で人はさまざまな困難と出会い、緊張し葛藤する中でそれを乗り越えていきます。そして、あとから振り返ると、その節目で人は大きく成長しているのです。そこを乗り越える力（「生きる力」と言えるのでは）を育てる＝支援するのが、学校（園）の教育だと思います。

しかし、こうした緊張の場面は何も全校（園）的な取組みだけではありません。保護者参観でも、あるいは、クラスに数人のお客さんが来られたときも、もっと言えば、毎日の授業や保育自体に緊張する子もいます。学級に入りにくい子にとってみれば、「日常の学級」そのものが緊張の場であったりもします。そして、子どもがその山（課題）を乗り越えられるだけのエネルギーを持っているかどうか、どういう支援が必要か、それを見極められるのは、一番子どもに近い担任の先生です。それはその子への日常的な「寄り添い」から出てきます。また、担任のアンテナでもあります。子どもの成長に適度な「緊張と葛藤」を設定し、生きる力を育てる。それを見極め、実践できるのは担任が一番です。「教師冥利」もこういう経験の積み重ねから出てきます。

さらに、こうした取組みだけでなく、毎日の授業でも発表や話し合いなどを入れて緊張や葛藤の場面を設定することもできます。また、校長室などでの「九九検定」や「〇〇暗唱」もあります。

2学期中盤、学級や学年でさまざまな「節目」を設定し、さらなる子どもたちの成長につなげましょう。